



低速の電動車が公共交通と地方を変える…

## グリスロの最大の良さは低速で、 ゆったり癒やしの乗り物！

のかを（読者の方々に）知ってもらえるのではないのでしょうか」と三重野さん。

2019年に全国で初めてグリスロタクシーの本格運用をスタートさせた広島県福山市の観光名所・瀬の浦地区の紹介では、運行事業者のアサヒタクシーの山田康文社長に加え、地元の仕事やホテルの支配人のインタビュー、地元の住民の「グリスロ談話」なども掲載されている。

同年度に実証運行を行った広島県尾道市の平谷祐宏市長、都内有数の繁華街の池袋でグリスロバス「IKEBUS（イケバス）」を導入した豊島区の高野之夫区長ら自治体関係者が多く登場しているほか、島根県松江市や東京都町田市で社会福祉法人が主体となって運行されている住宅団地向けのグリスロなど「使い方は地域の数だけ」という幅広い活用方法が紹介されている。

第3部の「グリーンスロモビリティが拓く新時代」では、移動ニーズの変化や今後の交通体系などから、グリスロの持つ可能性を検証している。グリスロの将来について三重野さんは「車両価格の高さを指摘する声がありますが、その要因となっている燃料電池が安くなれば」と課題を挙げつつ、「導入地域の自治体からは「今までとは違う町づくりができるようになった」という声も聞いています。観光福祉、町づくりといった様々な観点から可能性は広がっていくと思います」と期待を寄せている。

発行は株式会社学芸出版社。電話075・343・0811

## 「グリーンスロモビリティ ～小さな低速電動車が公共交通と地域を変える」

編著者・三重野 真代さん



編著「グリスロ」を手にする三重野真代さん

新時代の公共交通として注目を集め、全国で普及が進む「グリーンスロモビリティ（愛称・グリスロ）」を特集した著作が5月に発刊された。タイトルは「グリーンスロモビリティ～小さな低速電動車が公共交通と地域を変える」で、編著者は国交省の三重野真代さんと交通エコモ財団。現在、出向で東大公共政策大学院の特任准教授を務めている三重野さんは「グリスロ」の名付け親でもある。

発刊の経緯について三重野さんは「国交省の環境政策課に在籍した時から、グリスロの本を書いてみたいと思っていて、交通エコモ財団さんが出版社に話を通していただき、実現することができました」と話す。本を出版することで、「グリスロのことを交通事業者の皆さんをはじめとする専門家の方々だけでなく、一般の人々にも広く知っていただき、「グリスロっていいよね、こんな乗り物が増えてほしいね」

## 「こんな乗り物があればいいね、と 思っていただければ」が発刊の動機

当時、三重野さんが在籍していた国交省総合政策局環境政策課では「グリーン」の冠が付く新たな事業を立ち上げる話を持ち上がっていた。「新事業にキャッチーな名前を付けようということで、候補として「グリーンスロモビリティ」と「グリーンスモールモビリティ」が上がり、悩みましたが、低速であることが最大の良さだと思い決めました」という。本の中でも、その誕生までの経緯が書かれている。

巻頭の企画は「写真でわかる！グリーンスロモビリティ」。全国各地に登場したグリスロの写真と掲載、ドライバーにもスポットを当て、それぞれの地域で運行するグリスロの魅力を語ってもらっている。構成は第1部の「グリーンスロモビリティとは何か」から始まり、第2部では「快走！グリーンスロモビリティ」のタイトルで、地域住民の足とし



「グリスロ」の表紙